

問1 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？

1. 円墳 2. 前方後円墳 3. 前方後方墳 4. 方墳

問2 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？

1. 高句麗 2. 任那 3. 新羅 4. 百濟

問3 5世紀ごろ、渡来人によって大陸から日本へもたらされた、記録を可能にする文字体系を何という？

1. 漢字 2. 天文暦学 3. 儒教 4. 仏教

問4 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？

1. 稲荷山古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 石舞台古墳

問5 熊本県和水町にあり、稲荷山古墳と同じ大王の名が刻まれた鉄刀が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳 2. 高松塚古墳 3. 石舞台古墳 4. 稲荷山古墳

問6 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために使者を送り、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？

1. 琉球諸島 2. 中国大陸 3. 朝鮮半島 4. 日本列島

問7 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？

1. 倭の五王 2. 小野妹子 3. 聖徳太子 4. 三種の神器

問8 古墳の周囲に立て並べられた、当時の権威を示す土製の焼き物を何という？

1. 壁画 2. 埴輪 3. 勾玉 4. 須恵器

問9 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百濟から来た人物は誰？

1. 恵美押勝 2. 阿知使主 3. 王仁 4. 弓月君

問10 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？

1. ヤマト王権 2. 平安政権 3. 奈良政権 4. 飛鳥政権

問11 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？

1. 推古天皇 2. 倭の五王 3. 天智天皇 4. 聖徳太子

問12 5世紀のヤマト王権が、外交のために使者を派遣していた中国の王朝はどこ？

1. 齊 2. 南朝 3. 東晋 4. 宋

問13 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？

1. 前方後方墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 前方後円墳

問14 埼玉県行田市の埼玉古墳群のひとつで、金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳 2. 稲荷山古墳 3. 石舞台古墳 4. 高松塚古墳

問15 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

1. 奈良政権 2. ヤマト王権 3. 飛鳥政権 4. 平安政権

問16 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？

1. 大仙陵古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 稲荷山古墳

答え合わせ・解説

問1	答え 2 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問2	答え 4 百済	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。彼らは日本の豪族と協力し、土木工事や農具の製作、さらには学問や宗教の導入に多大な貢献をしました。当時のヤマト政権にとって、百済は重要な協力関係にある国でした。
問3	答え 1 漢字	漢字は、渡来人によって『論語』などの書物とともに日本へ持ち込まれました。初期には、豪族たちが自らの勢力を記録するために鉄刀に名前や文を刻むなどして利用されました。これが後に日本独自の万葉仮名やひらがな・カタカナの誕生へとつながる重要な足がかりとなりました。
問4	答え 1 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。
問5	答え 1 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問6	答え 3 朝鮮半島	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。また、半島内の権益を確保するために中国の王朝へ使いを送り、自身の軍事的な立場を認めさせようとしてきました。
問7	答え 1 倭の五王	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問8	答え 2 埴輪	埴輪は粘土で作った土製品で、円筒形や冢形、人物、馬などの形をしています。死者を弔うための祭祀の道具として、また埋葬者の権力を周囲に見せつける演出として機能しました。これらを並べることで、墓という空間がより一層格式高いものになったと考えられています。
問9	答え 3 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたとされています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとっての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問10	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問11	答え 2 倭の五王	宋書という中国の歴史書に登場する「讃・珍・済・興・武」の5人の王を指します。彼らは南朝の皇帝から「倭王」として認められ、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを追認されました。この外交的承認を利用することで、彼らは国内の豪族に対して優位に立ち、自らの権威をより確固たるものにしました。
問12	答え 2 南朝	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。朝貢と呼ばれる形式をとることで、中国皇帝から將軍の号を授かり、国内の支配を強化しようとしてきました。
問13	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。大仙古墳などはその代表例です。これらの古墳には、亡くなった首長の力や地位を示す副葬品が多数納められていました。
問14	答え 2 稲荷山古墳	稲荷山古墳は、埼玉県行田市の埼玉古墳群にある前方後円墳です。この古墳から出土した鉄剣には、115文字からなる金象嵌の銘文が刻まれていました。この銘文により、当時の大王の名が判明し、ヤマト王権の支配が遠方まで及んでいたことが証明されました。
問15	答え 2 ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問16	答え 3 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。